

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	12 月	3 日	記入者	中西 環
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	無渋榿(しぶなしがや)				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1957年(昭和 32)6月13日				
所在地	宇陀市菟田野宇賀志 真証寺旧境内				
所有者 管理者	真証寺				
員数	1株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) 榿			(樹齢)	
案内板の状況	入り口と榿樹木前に菟田野町観光協会・菟田野町教育委員会連名のもので設置されている				
公開	常時公開				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(旧境内の草刈りなどは主に麓の地元の方でされている)				
当面の課題	樹勢は良いほうなので当面は心配はないが、樹木は急斜面に根を張り巡らしている現状なので、根腐れや土砂崩れがなければ維持されると思われる。				
今後の課題	無渋榿に一番近い個人宅の方が周辺の草刈りをされていたので今は維持管理できているように思えたが、過疎・高齢化の地域ゆえ定期的な視察は必要かと思われる。				
その他 (由緒など)	根回り2m。根元から二股にわかれて広がる榿。別名「白米榿(はくまいがや)」。渋皮が乾燥すると種子から離れて中から白い胚乳があらわれることからそう呼ばれる。地元の方曰く、渋が無いので鹿が好んで食べていると聞いた。また灰汁抜きの手間が省け、炒って食べるとアーモンドのような味で香ばしいそうだ。食用油としてのカヤ油はその軽さと芳香から高級料亭などで重宝されているため希少価値が高い。(説明板・樹木図鑑など参照)				
コメント	現在の真証寺は神武東征伝承地ゆかりの宇賀神社のやや北側向かいにあるが、そこから東へ200メートルほど先に行くと無渋榿へ向かう案内板がある。旧境内地はその案内板から250メートル奥に進んだ場所にあったようで、急斜面に存在する無渋榿はもしかすると旧境内地の山門にあたるランドマークだったのではないかと想像するのも楽しい。麓に住まう方の案内で、実際、榿のたつ斜面をよじ登ると平地が広がり、少し高台には石の祠らしきものが存在していた。また、此方の庭先にも大きなカヤ(雄株)があり、この花粉が南風に乗って飛ぶと無渋榿が受粉し、結実しているのではないかと聞いた。古木から教わることの多い調査だった。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	12月	3日	記入者	中西環
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	無渋榧(しぶなしがや)
------	-------------

無渋榧への入り口にある案内板(右下は拡大)	榧まで250メートルの道中にも案内板有り
-----------------------	----------------------



榧の前にある説明板	急斜面にたつ無渋榧
-----------	-----------



真証寺旧境内地より無渋榧と石仏らしき祠	実の中の種子
---------------------	--------

